



千葉開府 900年



千の葉に 時を刻んで 900年

# 若者が安心して声を上げ、 未来を描けるまちへ

— ウェルビーイングと参画を支える仕組みづくりの提案 —

千葉市まちづくり未来研究所2班

ミライ2s (みらいず)

# 発表の流れ

---

1. チーム紹介
2. データに基づく課題の提示
3. 課題を踏まえて取り組むべきこと
4. 各事業の提案
5. 事業全体の概説とまとめ

# チーム紹介

## チーム紹介

---

チーム名

**ミライ2s (みらいず)**

活動理念

**ウェルビーイングな気持ちに満ち、  
主体的に自分の意見をもとに行動できる若者を増やす**

# メンバー自己紹介

---

## 大西 雄太 (おおにし ゆうた)

- 若者支援の仕事及び活動に携わる
- ユースワーカー協議会

## 平塚 光樹 (ひらつか みつき)

- 警察職員、ふらっぽサポーター
- 千葉中央地区BBS会等でこども・若者をターゲットとしたボランティアに従事

## 黒田 豊志 (くろだ とよし)

- 航空会社勤務
- 一級危機管理士として、地域社会のレジリエンスについて研究活動

## 藤本 直也 (ふじもと なおや)

- 大学生
- シンクタンク、コンサル会社でのインターン

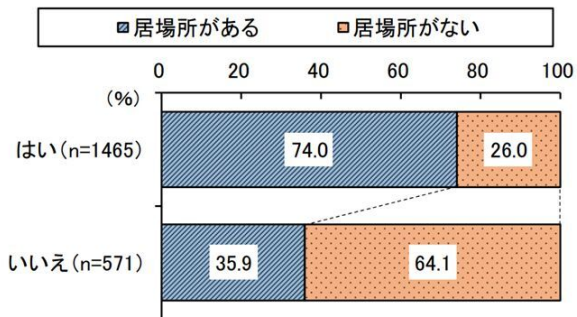
# データに基づく課題の提示

# こども若者の約5人に1人が「居場所が欲しいのに、ない」

こども家庭庁の調査研究によると、こども若者の約5人に1人（18.7%）が「居場所が欲しいのに、ない」と感じているということが浮き彫りになっている。

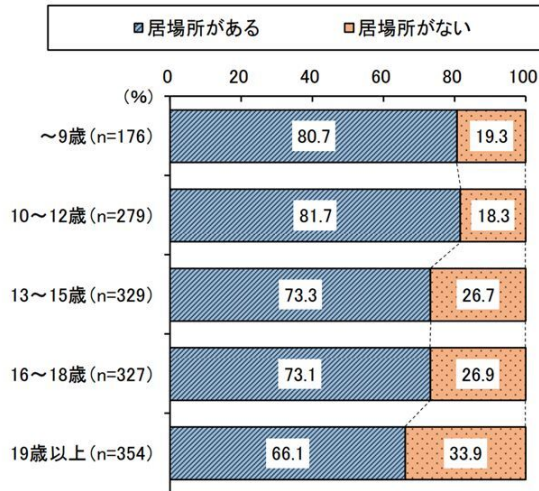
居場所のニーズ別、居場所の有無

あなたは、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がほしいですか。



居場所のニーズがある層における、年齢別、居場所の有無

あなたは、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がありますか。



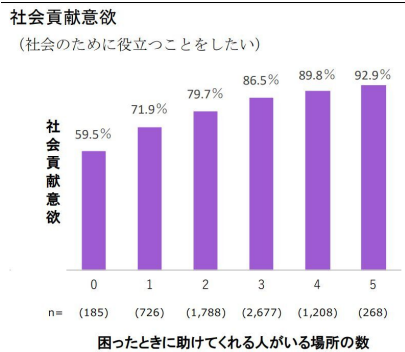
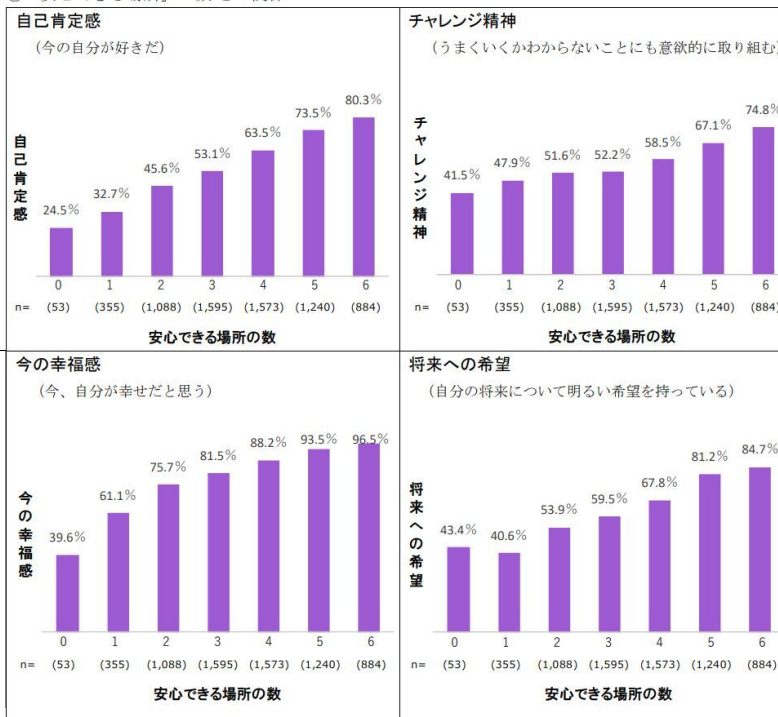
# 居場所の数が多いほどポジティブな影響がある

安心できる場所が多いほど、

- ①自己肯定感
- ②チャレンジ精神
- ③幸福感
- ④将来への希望
- ⑤社会貢献意欲

が高まる

①「安心できる場所」の数との関係



# 学習意欲の低い大人の実態

日本人就業者の半数以上がとくに何も行っていない。  
世界的に見ても極めて学習に消極的。

Q. あなたが自分の成長を目的として行っている勤務先以外での学習や自己啓発活動についてお知らせください。(複数回答/選択肢11項目)

※全体の回答で除く

	全米 (18223)	東アジア					東南アジア					南 アジア	オセア ニア	北米	ヨーロッパ				
		日本 (1000)	中国 (1002)	韓国 (1005)	台湾 (1001)	香港 (1002)	タイ (1059)	インドネシア (1010)	インドネシア (1002)	マレーシア (1000)	シンガポール (1002)	ベトナム (1002)	インド (1119)	オーストラリア (1003)	アメリカ (1010)	イギリス (1003)	ドイツ (1000)	フランス (1001)	スウェーデン (1002)
読書	34.5	23.2	27.5	39.1	26.1	34.9	27.9	43.7	42.2	38.5	32.7	48.5	33.5	35.4	41.0	38.0	36.7	31.0	22.1
研修・セミナー、勉強会等への参加	30.4	11.6	27.4	21.6	26.1	23.7	28.0	50.4	50.1	44.7	33.9	41.9	43.6	25.1	27.2	22.7	27.0	23.3	18.0
資格取得のための学習	22.0	15.9	22.9	27.4	23.3	18.8	22.2	29.4	43.6	25.2	17.9	22.4	30.6	15.7	20.3	14.1	19.6	12.2	13.2
通信教育、eラーニング	21.8	7.1	32.9	9.8	26.8	24.2	30.0	28.1	18.8	26.7	21.7	29.8	30.7	17.5	20.1	20.1	14.9	15.6	15.3
語学学習	20.9	9.9	17.8	25.9	26.5	28.7	26.2	20.9	27.0	23.1	14.7	46.3	25.6	10.8	15.7	13.7	11.6	19.0	12.3
副業・兼業	19.5	8.9	14.7	15.4	20.3	18.6	33.9	31.5	27.1	29.5	13.6	25.4	26.8	14.3	20.6	12.2	12.1	11.4	13.4
NPOやボランティア等の社会活動への参加	17.0	3.4	12.3	8.4	12.4	11.3	18.3	25.1	37.5	21.7	14.2	24.1	31.4	12.0	17.7	15.2	12.3	12.6	14.1
勉強会等の主催・運営	12.8	2.9	18.1	9.6	15.3	10.2	13.7	11.8	13.1	18.9	9.9	19.7	23.4	8.4	11.9	9.2	12.6	11.5	9.5
大学・大学院・専門学校	8.1	1.7	5.9	3.5	7.2	5.3	5.6	13.8	10.8	14.8	7.4	5.5	13.0	8.3	12.5	4.5	11.2	4.9	10.5
その他	2.2	3.8	0.8	2.5	1.3	1.3	1.1	2.6	1.7	2.2	1.5	1.2	1.1	1.9	2.8	3.6	4.5	2.9	3.8
とくに何も行ってない	18.0	52.6	20.6	19.3	14.5	18.8	13.4	5.6	5.4	9.5	20.1	3.6	3.2	28.6	15.7	24.1	21.2	22.6	28.1

(%)

※ベースは「全数」、( )内は回答者数 ※得点の高低で色付け(高得点:赤、低得点:グレー)

※対象地域

【東アジア】日本(東京、大阪、愛知)、中国(北京、上海、広州)、韓国(ソウル)、台湾(台北)、香港、【東南アジア】タイ(グレートバンコク)、フィリピン(メトロマニラ)、インドネシア(グレートジャカルタ)、マレーシア(クアラルンプール)、シンガポール、ベトナム(ハノイ、ホーチミンシティ)  
【南アジア】インド(デリー、ムンバイ)、【オセアニア】オーストラリア(シドニー、メルボルン、キャンベラ) 【北米】アメリカ(ニューヨーク、ワシントン、ロサンゼルス)、【ヨーロッパ】イギリス(ロンドン)、ドイツ(ベルリン、ミュンヘン、フランクフルト)、フランス(パリ)、スウェーデン(ストックホルム)

# 若者世代が将来のキャリア像を描けていない

---

## ■ 文部科学省の「青少年の意識に関する調査（令和4年）」

→ **高校生の6割以上**が「**将来の姿をまだ描けていない**」と回答、この割合は年々増加傾向である。

## ■ 内閣府の「子供・若者白書（令和5年版）」

→ 全国の大学生を対象にした調査では **大学生の約6割**が

「**将来の職業像をまだ具体的に描けていない**」と回答

## ■ マイナビの大学1～2年生を対象とした「大学生低学年のキャリア意識調査（28・29年卒対象）」

→ **大学1・2年生の7割以上**が「**将来・キャリア・仕事について不安**」と回答

# 若者の地域社会とのつながり・世代横断的なコミュニケーション機会の希薄化

- 若者人口が比較的維持されていた時期でも自治会加入率は下がり続けており、若者の地域社会のつながりや世代横断的なコミュニケーション機会が希薄化している。
- ”若者意識”の課題 であると同時に、”つながり機会＝地域社会の仕組み”の課題でもある。

## 千葉市 13～22歳人口の経年推移（住民基本台帳人口）

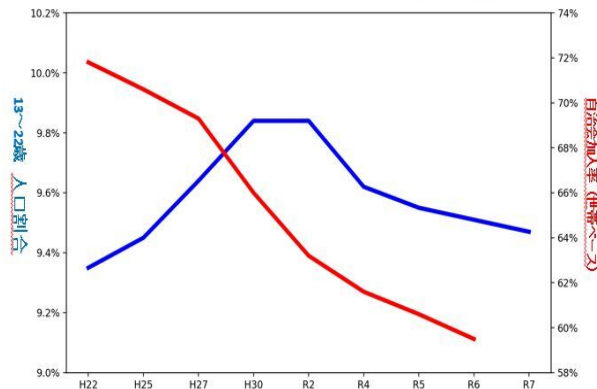
（各年3月31日現在）

年度（3月末）	13～22歳人口	総人口	割合（％）
平成22年	89,339人	955,022人	9.35%
平成25年	90,586人	958,161人	9.45%
平成27年	92,822人	962,554人	9.64%
平成30年	95,245人	967,966人	9.84%
令和2年	95,779人	973,121人	9.84%
令和4年	93,886人	975,947人	9.62%
令和5年	93,274人	977,086人	9.55%
令和6年	93,260人	980,931人	9.51%
令和7年	93,172人	984,357人	9.47%

出典：千葉市 住民基本台帳人口（年報別）

## 千葉市 13歳～22歳の若者人口割合と自治会加入率の推移

出典：千葉市 市民自治推進課資料をグラフ化



## 千葉市 町内自治会加入率の推移（世帯ベース）

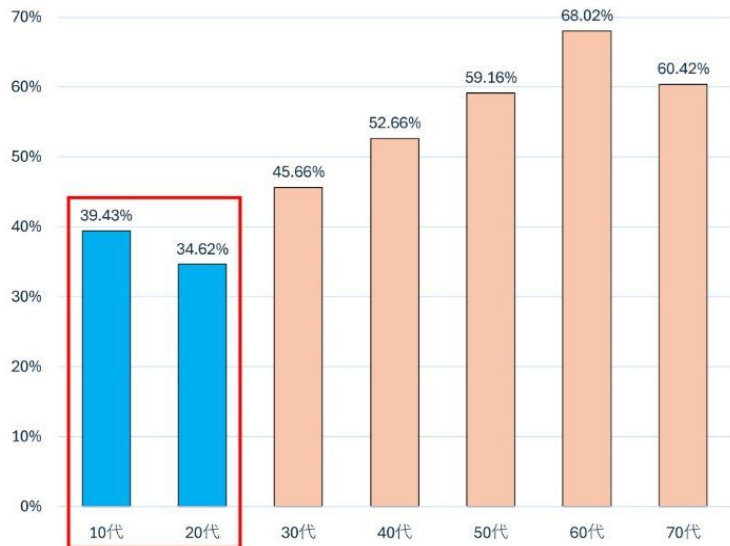
出典：千葉市 市民自治推進課公表資料

年度（3月31日）	自治会数	加入世帯数	加入率
平成22年度	1,041	294,501	71.8%
平成25年度	1,075	297,544	70.6%
平成27年度	1,098	298,898	69.3%
平成30年度	1,098	293,931	66.0%
令和2年度	1,100	289,052	63.2%
令和4年度	1,100	286,949	61.6%
令和5年度	1,107	284,728	60.6%
令和6年度	1,102	282,915	59.5%

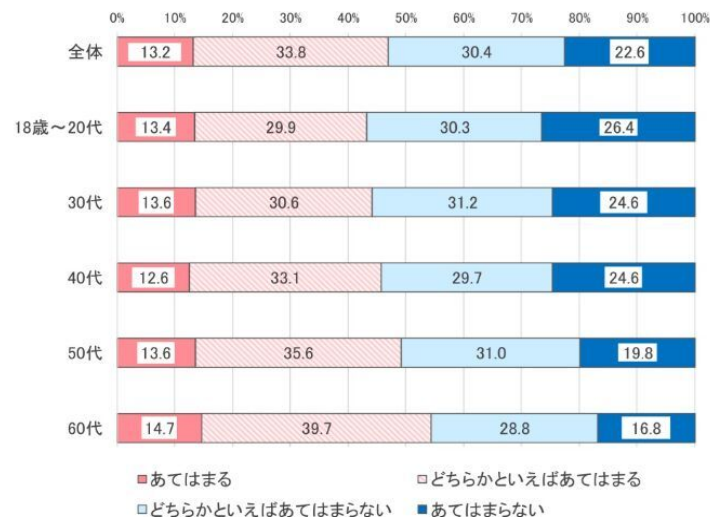
# 若者の社会参画意識が低い

- 2025年3月に第一生命経済研究所が全国の18歳～69歳の10,000人に対して実施した調査によると「政治に関心がある」について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した合計割合は、18歳～20代が43.3%で、投票率と同じく、他のどの年代と比べても低い

図表1 第50回衆議院議員総選挙における年代別投票率(2024年)



図表2 「政治に関心がある」について回答した割合(年代別)



\*1: 全体は n=10,000、各年代は n=2,000。

資料: 第一生命経済研究所「第13回ライフデザインに関する調査」(2025年3月)

# 意見を表明しにくい日本の若者

- 4カ国の調査で子ども・若者が社会や政治について意見を表明しやすいと答えた割合が最下位

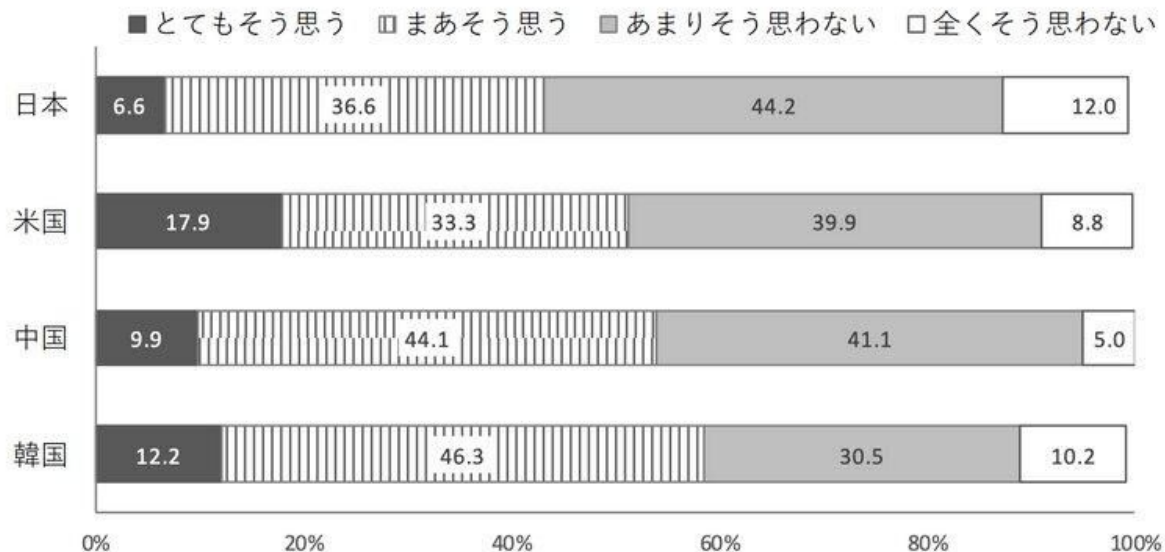


図 5-7 子ども・若者は社会や政治について自分たちの意見を表明しやすいと思いますか

# 政策根拠の理論（子どもの権利のランディモデル）

## SPACE（スペース）

- 安全で包摂的な意見表明の場（空間）

## VOICE

- 自分の意見を表現できる機会（声）

## AUDIENCE

- その意見を聴く大人・社会（聴き手）

## INFLUENCE（インフルエンシス）

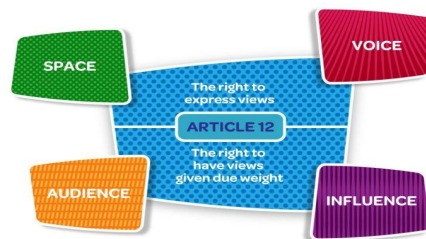
- 意見が反映される仕組み（影響）

## ARTICLE 12

- 子どもの権利条約第12条：意見を述べる権利／意見が考慮される権利

## BRIDGE（ブリッジ）

- 若者の意見や経験が大人・地域社会に届くための仕組みおよび欧州における伝統的実践の概念



This model provides a way of conceptualising Article 12 of the UNCRC which is intended to focus educational decision-makers on the distinct, albeit interrelated, elements of the provision. The four elements have a rational chronological order:

- SPACE:** Children must be given safe, inclusive opportunities to form and express their view
- VOICE:** Children must be facilitated to express their view
- AUDIENCE:** The view must be listened to.
- INFLUENCE:** The view must be acted upon, as appropriate.

Figure 1 Lundy's Model of Participation as Included in Ireland's National Strategy on Children and Young People's Participation in Decision-Making 2015-2020<sup>3</sup>

本提案で示した SPACE / BRIDGE / INFLUENCE は、子どもの権利条約第12条に基づく参加の4要素（Space・Voice・Audience・Influence）と整合する

# 課題を踏まえて 取り組むべきこと

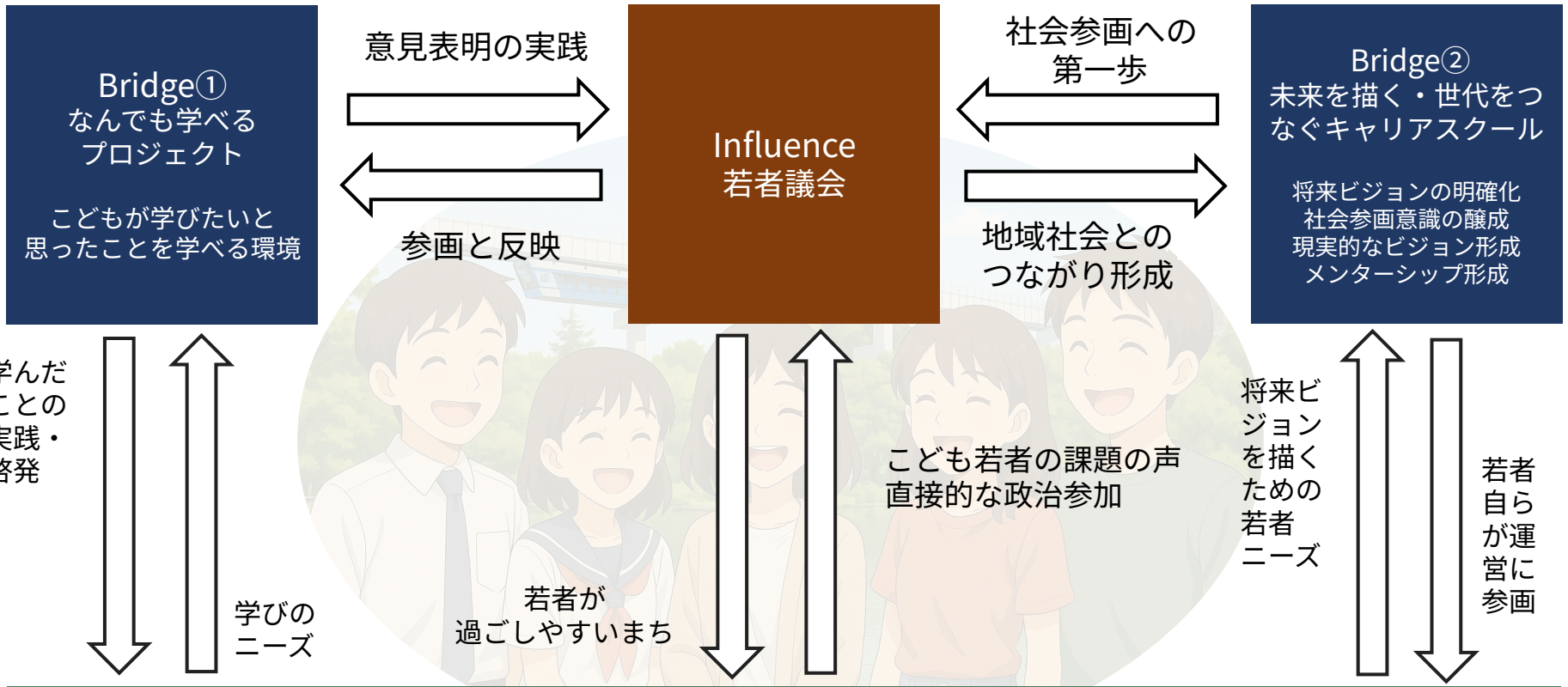
## 課題を踏まえて取り組むべきこと

---

### 自己肯定感を育み、自分の考えをもとに行動する若者を増やす

- **Space** : 若者が安心して過ごし、参画の入り口となる居場所・余白をまちの中に創出する必要がある
- **Bridge** : 若者が学びや将来を考える機会を得て、社会とつながるための仕組みが必要である
- **Influence** : 若者の意見が意思決定に反映される実践的な参画の機会を整備する必要がある

# 各事業の説明



**Space : まちの余白拡大事業**  
若者が居場所感を持ちながら参画の入り口となる場を整備

# Space まちの余白拡大事業

若者が居場所感を持ちながら参画の入り口となる場の整備

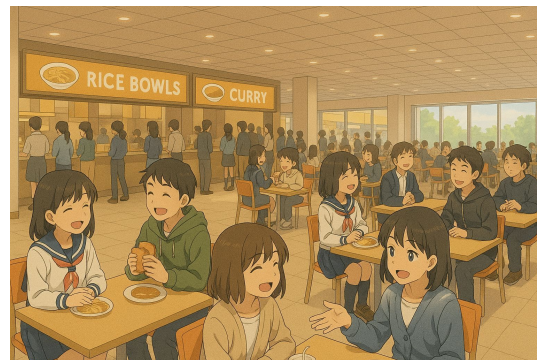
# まちの余白拡大事業

## 事業目的

- ただいられる場、ホッとする場を増やし安心な居場所を提供
- Bridge、Influence事業の土台となる場を増やし、事業を相互に若者が行き来できるようにする

## 事業内容

- 官民連携型の「**千葉市ユース応援協議会**」を立ち上げ、遊休スペースを提供してくれる民間企業等を募る
- 既存公共施設を若者が立ち寄りたくなる場に改修→若者とともに**DIY**をすることで、施設に愛着を抱いてもらう
- 千葉都市モノレール各駅の**空きスペース**を活用し、若者が多い日・時間帯にアウトリーチ的な場を展開
- 「**千葉市認定ユースワーカー制度**」を整備し専門性を持ちながら、若者にとって居心地よくも挑戦の機会を得られるような場作りを支援する人材を配置・養成する



千葉都市モノレールの遊休スペース

出典：<https://chiba-monorail.co.jp/index.php/service-store-chibastation/>

# 他自治体事例

## 神戸市（まちなか自習室）

- 地元企業と連携し、遊休スペースを中高生向けに開放  
（例：カーディーラーの商談スペース、カフェの一角）



出典：[神戸市子育て応援サイトこどもっとHP](#)

## 福井県（こみかるユース福井）

- ショッピングセンターのフードコート等でコーディネーターが若者の関係づくりのために伴走



出典：[こみかるユース福井HP](#)

## 市原市（理想の自習室）

- 生涯学習センターの一部を若者向けのスペースに。コーディネーター（ユースワーカー）を配置することで地域との接続、参画を支援



出典：[理想の自習室公式Instagram](#)

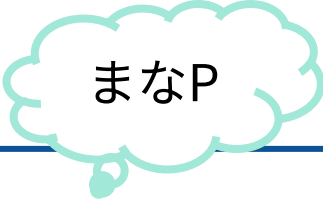


# Bridge①

## なんでも学べるプロジェクト

こども若者が学びたいと思ったことを学べる環境の構築

# なんでも学べるプロジェクト（概要）



まなP

## 概要

- こども・若者が学びたいと思ったことを学べる環境をつくる。

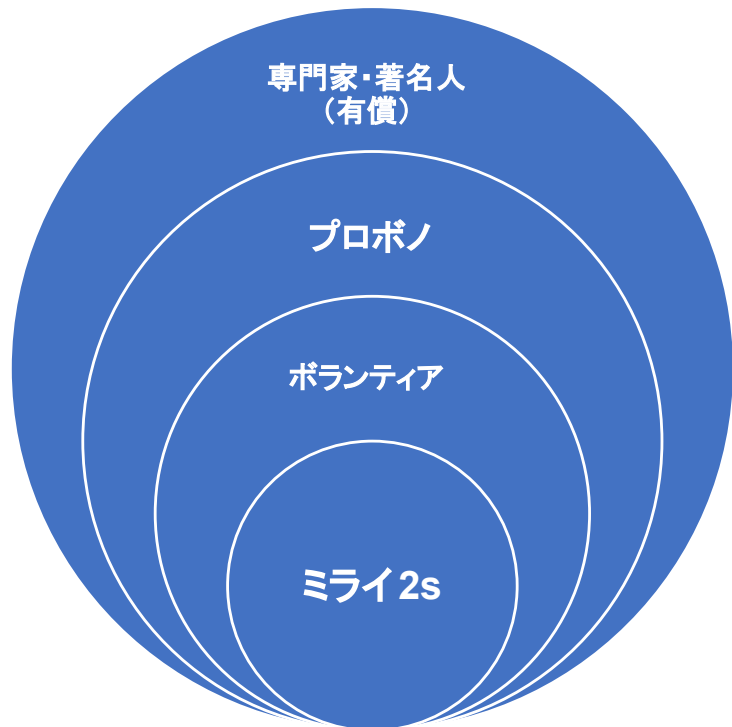
## 目的

- こども・若者が主体的に学習できる仕組みをつくることにより、成人後も継続して意欲的に学習できる人材を育成するとともに、こども・若者の意見形成の資とする。

## 実施案

- スタート
  - こどもの居場所を提供し、訪れたこどもたちから学びたいことをヒアリングし、可能な範囲で実現していく。
  - 低予算、小規模を基本とする。
  - (例) ミライ2s 研究員の職業体験
- ゴール
  - 市の事業として学校等にアンケートBOXを設置し、学びたいことを募集して実現していく。
  - (例) 専門家による講義、学習合宿

協力者のイメージ



## 類似の事業

- アビコなんでも学び隊（我孫子市）
- けやき倶楽部（市内の民間団体）

## 必要な協力体制

- 広報の協力（市HPでの掲載等）
- 公認
- 公共施設の無償提供
- 事業拡大に向けた相談対応

**Bridge②**  
**未来を描く・世代をつなぐ**  
**キャリアスクール**

# 『未来を描く・世代をつなぐキャリアスクール』の目的

---

## 課題

- ①若者のキャリアや将来ビジョンへの不安
- ②若者の地域社会とのつながりや世代横断的なコミュニケーション機会の希薄化
- ③若者の社会参画意識が低い

## 課題解決に向けた目的

- ①若者の将来ビジョンの明確化
- ②地域社会とのつながり形成、社会参画意識の醸成
- ③地域人財や企業人財とのコミュニケーションを通じた現実的なビジョン形成
- ④継続的な接点＝「相談できる大人」によるメンターシップ形成

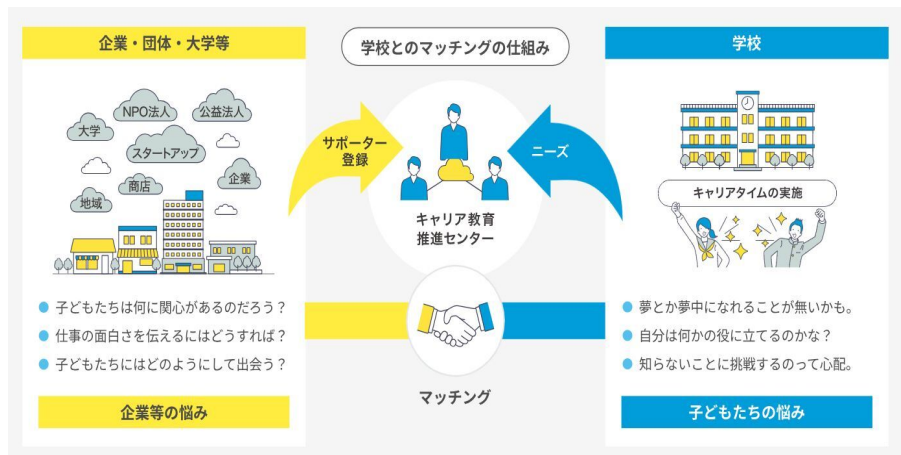


# 他自治体（名古屋市）の取り組み

名古屋市教育委員会が推進する

## 「キャリアタイム」

<https://career-education-portal.city.nagoya.jp/lp-supporter>



【公式】名古屋市教育委員会\_キャリア教育推進施策紹介動画

# 千葉市で実現したい『未来を描く・世代をつなぐキャリアスクール』の基本設計

## 若者のNeeds・Wantsは・・・

『まちの余白を再構築（Space）』事業による\*\*若者が街なかの溜まれるスペース\*\*で社会課題や将来ビジョンに関する若者のNeeds・Wantsを集約する

## 運営形式は・・・

区の事業単位で地域社会に根ざしたコンパクトなスクール運営を展開  
若者のNeeds・Wantsに合わせたテーマを設定したアフタースクール形式  
→ 講義60分+質疑応答・グループワーク30分を想定した90分スクール

## 場所は・・・

公共施設（地域）・サポーター施設（企業）を利用

## 講師は・・・

テーマに合わせ、事前登録されたキャリアサポーター（地域シニア人財・企業人財）から選定  
→ 経験・知見・スキルが豊富な社会貢献意識の高い地域シニア人財のサポーター参画  
→ 社会貢献・地域貢献などESG経営を推進する地元企業のサポーター参画

## 費用は・・・

準備費用) キャリアサポーター（シニア人財・企業人財）の募集広告（100,000円を想定）  
運営費用) 会場施設費・資料印刷費・サポーター交通費等（1スクールは30,000円程度を想定）



# 千葉市で実現したい『未来を描く・世代をつなぐキャリアスクール』の基本構想

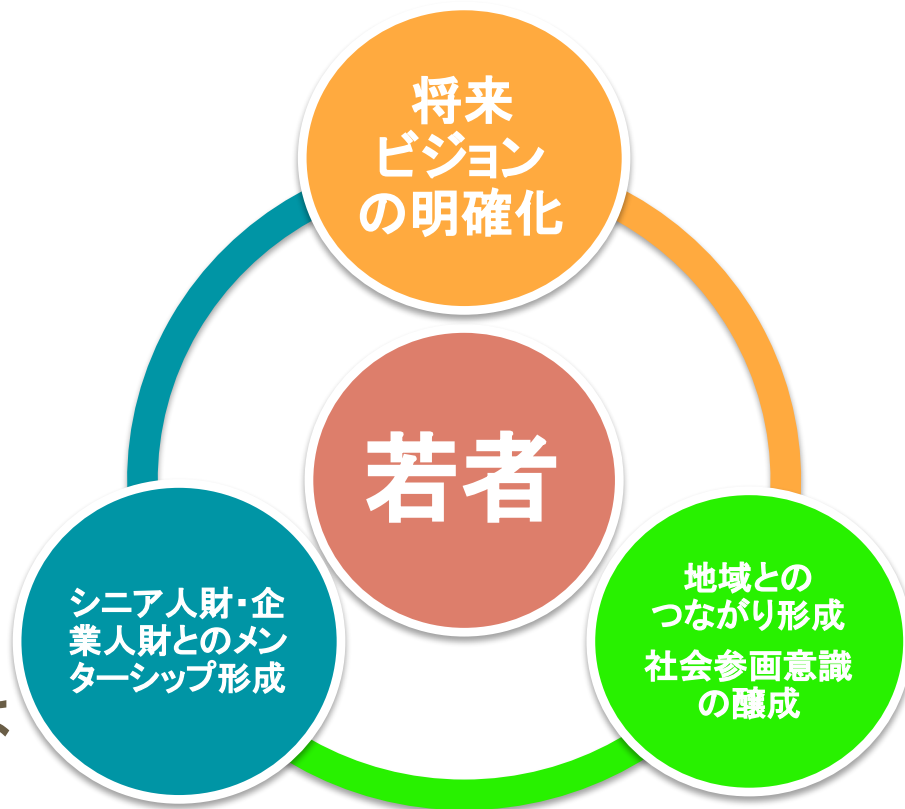
区を事業単位として地域社会に根ざした  
コンパクトなスクール運営を展開

地域社会で若者の顔が見える  
フェーズフリーでサステナブルな  
コミュニケーション機会の創出



若者が  
将来や未来に希望を抱き  
地域の渦の中心となって  
社会参画すれば

地域社会のレジリエンスは  
必ず強くなる！



# Influence

## 千葉県若者議会

若者の意見をより直接的に反映させられる仕組みの実現

## 千葉市で実現したい施策 <若者議会>

---

1. 千葉市こども・若者基本条例に追加する形で  
**「千葉市若者議会条例(仮)」を立法化、**  
役割等もセットで明文化する。
  - 2以下に示す予算付与の根拠となるように。
2. 若者議会に対して、若者が使用用途を決定することができる年間予算を付与し、体系的な権利主張の機会を与える。
  - 若者の意見をより直接的に反映させられる仕組みへ。

# 他自治体（愛知県新城市）の取り組み

## 法的根拠

- 新城市若者条例の第10条を根拠に、新城市若者議会条例を制定

## 概要

- 任期は1年、定員20人(R4年は、高校生18人、大学生2人)
- 委員、及び市外委員のサポート役として、メンター市民(若者会議経験者等)とメンター職員(若手)が参加

## 特徴

- 予算の上限1,000万円の使い道を会議で考え、政策立案
  - →11月に市長へ答申、それ以降は事業の詳細を検討
- 3月に議会で審議され、可決されたら次年度に実施
  - →これまでに、図書館のリノベーションなど40の事業



新城市若者議会HPより「第9期ポスターデザイン」  
<https://wakamono-gikai.jp/>

# 千葉市若者議会の事業構想

---

## 会議の構成

- 議題は若者が設定し、専門的なファシリテーターを中心に議論を進める
- メンター（大学生や20/30代の社会人・5人）がサポート役として参加
- 参加できる若者は30人を上限として、全15回・1回の参加につき1500円を支給する

## 事業予算

- 初年度300万円~600万円 以後~1500万円ほど

## 人件費

- 若者に係る費用
  - $30人 \times 1回あたりの参加(1500円) \times 15回 = 67.5万円$
- 専門的なファシリテーター
  - $1回1万円 \times 15回 = 15万円$
- メンター
  - $6人 \times 3000円 \times 5人 = 9万円$

# 現行の千葉市のこども・若者会議からアップグレードできる点

---

## 市政への影響

- こども・若者が、自分たちの権利を擁護できる場になる。また、本格的な制度として整えることで、参加するモチベーションも上がる。

## 意思決定への参画

- 彼ら自身が予算の目的や使用用途を決定することで、新たな視点として、若者の意見を政策に反映させることが出来る。

## 将来のリターン

- 市の事業に本格的に携わることで、エンパワーメント・社会的スキル・地域への主体的な参加が期待できる(López & Baya 2025)。

→成長するにつれて、別の形で市に貢献することが期待できる

## 参照および引用

---

- ・ 千葉市.こども・若者会議.

<https://www.city.chiba.jp/kodomomirai/kodomomirai/kikaku/kowaka-kaigi.html>.

- ・ 新城市若者条

例.[https://www1.g-reiki.net/shinshiro/reiki\\_honbun/r366RG00000730.html?id=j10](https://www1.g-reiki.net/shinshiro/reiki_honbun/r366RG00000730.html?id=j10).

- ・ 総務省.〔若者によるまちづくりの推進（新城市若者議会）〕.

[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000936322.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000936322.pdf).

・ Oubiña López, M., & Gómez Baya, D. (2025). *Interventions to promote civic engagement among youth and its outcomes on mental health: A scoping review*. *Children*, 12(665). doi: 10.3390/children12060665. PMID: 40564623; PMCID: PMC12191928.

# 事業の全体

# 自分の意見・声が社会に反映される

学びたいと思った  
ことを学べる


こども若者



将来ビジョンを描く  
地域社会とつながる

「生きててもいい」と思える場所

# 事業スケジュール



	令和8年度		令和9年度		令和10年度	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
<b>Space</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調整・営業</li> <li>試行運用（公共・民間施設）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3企業の遊休空間を借用</li> <li>予算審議</li> </ul>	試行運用・営業 ユーザー養成	試行運用 前半評価	本実施	本実施
<b>Bridge①</b>	試行運用	試行運用	本運用	本運用	本運用	本運用
<b>Bridge②</b>	調整準備	調整準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者ニーズ集約</li> <li>キャリアサポーター募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズに合わせたテーマ選定</li> <li>キャリアサポーターとのマッチング</li> </ul>	本実施 （開校）	本実施 （開校）
<b>Influence</b>	調査	予算審議	試行運用	試行運用	本実施	本実施

# 事業の詳細

	Space事業 まちの余白拡大	Bridge事業① なんでも学べるプロジェクト	Bridge事業② 「未来を描く・ 世代をつなぐキャリアスクール」	Influence事業 若者議会
サービス構築	趣旨に賛同する企業に声掛け、 行政は広報周知等バックアップ	SNS広告等によるボランティアの 募集、必要な人材への声掛け	Space事業において、若者の声を集約した Wants・Needsに合わせたテーマでキャリアス クールを開校する	若者条例に基づく立法によって議会 設置 →行政が管理
規模	初年度民間主体 次年度以降産学官連携	1～	区を事業単位とし、若者のWants・Needs に合わせて開校	若者30人ほど、メンター、ファシリテ ーター
場所	民間・公共の遊休スペース 現有公共施設	公民館等	公共施設(地域) サポーター施設(地元企業)	市役所等の公共施設
誰が	千葉県子ども若者支援室 千葉県都市政策課・まちづくり課 (新規設立:ユース応援協議会)	ミライ2s→市	千葉県子ども若者支援室 千葉県都市政策課・まちづくり課 (新規設立:ユース応援協議会) キャリアサポーター	行政
お金	・初年度50万 ・以後300万	・初年度3万 ・以降10万	・サポーター募集広告10万 ・1スクール運営3万円	・初年度300万円~600万円 以後~1500万円ほど ・人件費は90万円ほど
熱意	若者が「生きててもいいと思える 社会」を目指して一緒に作りま しょう！	いきなりスゴいことをやる必要は ない。できることから地味にやり ます！	若者が将来ビジョンを描き、未来に希望を 抱き、地域社会の渦の中心となって社会参 画していくトリガーにしたい！	・若者の権利を反映させやすい形態にす る。 ・積極的に意見を言えるができる人材を 育成する。

**提案は以上です  
ご清聴ありがとうございました**